

## 愛西市地域福祉計画の評価、意見

(対象年度：平成31年度)

項 目	評価、意見内容
<p>目標 1 身近な地域の支え合い 活動を進める</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、集いの機会の自粛が目立ってきたが、今後も感染症が全くなくなるということは考えにくく、コロナ禍における集いでの交流という課題にどう対処していくべきか、検討していく必要がある。また、ネットワークの活用によるリモートでの開催など工夫を凝らすことにより選択肢を増やす必要がある。</p> <p>制度のみでなく、近所同士の付き合いをどうしていくか、近所や地域での見守りなどに関する住民の意識の醸成が必要である。</p>
<p>目標 2 ボランティア活動・地域 活動を推進する</p>	<p>ボランティア活動を若い世代の方や学生に担っていただけのように、魅力ある活動になると良い。</p> <p>老人クラブ会員数の減少の要因に、価値観の変化が挙げられているが、今後もっと具体的に分析していく必要がある。</p> <p>地域との積極的なつながりを望まない人が多いことに加え、他人への関与が責任問題へと発展するという不安によって、地域とのつながりが希薄化しているとの報告がある。このことに対して、今後どう対応していくかを検討する必要がある。</p> <p>また、退職等により時間に余裕ができた住民のなかで、地域で活動したいと思っている人を対象に、市の事業や福祉制度、ボランティア活動を学ぶとともに、活動の場を知ってもらう機会となる講習会や研修会を企画し、「活動したい人が活動できる」環境をつくっていくと良いであろう。</p>
<p>目標 3 支援が必要としている人 とサービスの橋渡しをする</p>	<p>様々な機会を通して住民に周知を図ってほしい。</p>

<p>目標 5 福祉について共に学ぶ 機会を充実する</p>	<p>高齢者見守り訪問員養成講座については、今年度は開催されていないが、必要な講座は計画的に開催できるよう努めていく必要がある。</p> <p>小さい時からの福祉教育がその後の意識に関わるため引き続きの充実が望まれる。また若者が福祉について学ぶ機会が少ないため、若者をターゲットにした機会を考えていく必要がある。</p>
<p>目標 6 安心・安全なまちづくり を推進する</p>	<p>災害時の助け合いは、普段の近所との関わりが大きな力を発揮するため、普段からの付き合いが大切であることを住民に知ってもらう必要がある。</p> <p>また、日常生活における移動手段の充実は、公共交通機関の少ないこの地域の住民にとって重要な課題である。既存の制度の利用・活用方法に関するわかりやすい周知が望まれる。さらには、移動手段に関する選択肢を増やし、各種手段を組み合わせる利用できるよう、今後も新たな制度やサービスを創り出すことが必要である。</p>
<p>総評</p>	<p>市で実施する公的な事業のさらなる充実が必要であるとともに、それだけでは地域福祉のすべてをカバーすることはできないことから、住民による地域活動の推進も重要になっている。地域住民が地域に必要なこと、できることを考え、行動できるよう、住民の意識を高める必要がある。</p> <p>地域共生社会の実現に向けた地域づくりの推進が必要であるなかで、行政が地域での活動をサポートしていくことが重要である。</p> <p>地域に埋もれている「地域で様々な活動ができる人」に対して、活動のきっかけをどれだけつくれるかが、今後の地域力の差になっていくと思われる。</p>